

内分泌・代謝・糖尿病内科 伊藤裕進 講師が国際学会 International Symposium on Pheochromocytoma and paraganglioma 2014 の Best Case Report Award を受賞しました



近畿大学医学部内分泌・代謝・糖尿病内科 伊藤裕進講師が、平成26年9月17～20日に京都で開催された International Symposium on Pheochromocytoma and paraganglioma 2014 において「A case of mixed cortical-medullary tumor accompanied with unilateral multiple micronodules producing aldosterone」を発表し、Best Case Report Award を受賞しました。

International Symposium on Pheochromocytoma and paraganglioma は、内分泌疾患である褐色細胞腫とパラグングリオーマをテーマとした国際学会で、Best Case Report Award は発表演題のうち特に優秀な症例報告に対して授与されます。

(演題内容)

カテコラミンを過剰に分泌し、動悸・頭痛・高血圧の原因となる褐色細胞腫は、「副腎」という臓器の「髄質」という部位を起源とする内分泌腫瘍であり、副腎の「皮質」由来のホルモン(コルチゾール・アルドステロン)は通常産生しません。今回報告した褐色細胞腫は、カテコラミンを過剰に分泌するだけでなく、分泌されないはずの副腎「皮質」ホルモンを産生している事実を、内分泌学および組織学的に確認することによって多彩な症状の原因を解明し、さらに治癒に導いた世界的にも非常に稀な症例です。

2014/10/29 15:46